

第6学年1組 外国語活動学習指導案

令和元年11月1日（金）5校時
出雲市立今市小学校

T1 英語専科 玉木 真実

T2 AET 石倉ほなみ

1 単元名 I like my town. (「We Can! 2」Unit 4)
～私たちの住んでいる町を紹介しよう～

2 単元の目標

- ・地域のよさや課題等について自分の考えや気持ちを伝え合ったり、地域のよさや願いについて伝え合ったりしようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・地域のよさや欲しい施設等について表す表現に慣れ親しむとともに、それを英語で書くことに慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- ・地域のよさや願い等について、自分の意見を持ち、伝えるための英語の語順や語句に気付く。(言語や文化に対する気付き)

3 言語材料

○We have/don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing/shopping/Swimming]. I want a [library/park]. (Sakura) is nice.

○town, 施設・建物(amusement park, aquarium, swimming pool, stadium, roller coaster, Ferris wheel), nature, 動作(fishing, dancing, jogging, playing, reading, shopping, singing, walking), nest

4 基盤

【児童の実態】

〈個人情報保護のため省略〉

【教材について】

グローバル化が進む現代において必要とされるグローバル人材とは、英語力が高いだけではなく、地域の一員として自分の住む地域を知り、愛することであると考えます。

本単元は、施設の名前や「We have/don't have～」等の表現に慣れ親しみ、地域のよさを伝え合ったりする活動によりコミュニケーションを楽しむとともに、自分たちが住む地域への興味・関心を高めることができる内容となっている。グローバル化人材の育成につながる適切な単元と考える。

なお、本単元は、地域のよさを伝え合う活動を行うが、同じ地域に住んでいる児童同士が地域の紹介をしても、活動への意欲が高まりにくいことからALTに紹介しようというゴールを設定し、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにする。

また、「聞く・読む・話す・書く」という4つの技能を統合的に指導できる単元である。さらに、英語を用いて地域のよさや課題を表現していく学習活動は、6年生国語科説明文教材『町の幸福論ーコミュニティデザインを考える』の学習にもつながると考える。



【指導にあたって】

本単元では、まず ALT の交流授業を設定する。ALT が自己紹介をする時には、出身地のことも話題にし、本単元の言語材料である「We have/don't have～.」「We can enjoy～.」「I want a～.」を用いてもらう。ALT の出身地に関する紹介を聞くことで、単元ゴールの内容にふれることになる。単元ゴールとなる活動内容を児童に知らせ、T1 や T2 のデモンストレーションによりさらにゴールへのイメージを高め、学習意欲を高めていきたい。外国籍の ALT に自分たちの地域を紹介するという活動は、普段何気なく生活している自分たちの町を改めて見つめ直し、よさや願いを考えることにつながると考える。これを機会に、地域への愛着をさらに深めてほしいと願っている。

本単元は、全6時間を予定している。第1・2時では単元のゴールや流れを理解し、新出語句・表現をゲームやチャンツ、「Let's Listen」での聞き取りなどを取り入れながら慣れ親しむ活動をメインに取り組む。第3・4時では紹介する内容を見つめたり、ポスター作りをしたりする。また自分の考えや思いを伝える表現の練習も行う。第5・6次では、ポスターを用いて自分の住んでいる町のよさを伝え合う言語活動に取り組む。

本時では、ミニポスターを用いて、地域にある施設、あってほしい施設について友だちとのやり取りを通して詳しく伝え合う活動を行う。T2 とのデモンストレーションを通して本時での「やり取り」とは「質問→答える→質問…」という流れを指し、「詳しく」とは「やり取りを通して発表内容を膨らませる」ということを確認する。友だち同士のやり取りを通して、ALT に伝えたい町のよさなどの発表内容を充実させたい。中間評価では、どのような質問が出たかということを中心にふり返り、本単元で子どもたちに慣れ親しませたい表現を共有する。そうすることで、どのような質問をしたらよいか子どもたちに提示することができ、2回目の伝え合う活動でより活発なやり取りが期待できる。また、授業の最後に、単元ゴールで伝える ALT を想定して参観者にも紹介を聞いてもらう。「授業を見に来てくださった先生方に、みんなの地域を紹介して、知ってもらおう。」と投げかけ、発表への自信を深めさせたい。

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しむ	言語や文化に関する気付き
地域のよさや課題等について自分の考えや気持ちを伝え合ったり、地域のよさや願いについて伝え合ったりしようとしている。	地域のよさや欲しい施設等について表す表現に慣れ親しむとともに、それを英語で書くことに慣れ親しんでいる。	地域のよさや願い等について、自分の意見を持ち、伝えるための英語の語順や語句について気付いている。

6 単元の指導計画 本時 5/6 時間

次	時	主な活動	評価の観点			評価
			コ	慣	気	評価規準（方法）
1	1	・ ALT の自己紹介を通して、学習活動のゴールを知る。 ・ いろいろな施設の名前を知り、デジタル教材の視聴をしたり聞き取ったりする。		○	○	・ 施設の名前などの言い方について、日本と英語の違いに気付いている。 ・ 施設の名前や、地域にあるもの・ないものについての表現に慣れ親しんでいる。 (行動観察・ふり返りカード)
	2	・ 地域にあるもの・ないものを伝える表現を知る。				
2	3	・ 地域のよさの伝え方にデジタル教材の視聴などを通して慣れ親しむ。		○		・ 自分が住んでいる町のよさなどについて表す英語表現に慣れ親しんでいる。 (行動観察・ふり返りカード)
	4	・ 地域のよさを見つけ、自分の考えや思いを伝える表現を練習する。				
3	5 本時	・ 自分たちの地域にある施設やあってほしい施設について、友だちとのやり取りを通して詳しく伝え合う。	○			・ 自分が住んでいる町のよさなどについて、詳しく伝えようとしている。 (行動観察・ふり返りカード)
	6 課外	・ ALT に自分のたちの地域について紹介する。				

7 本時の学習

(1) ねらい

自分が住んでいる町のよさなどについて、詳しく伝え合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 展開

時間	学習活動	教師の支援（・）と評価（☆）	
		T 1	T2 (AET)
8	1 あいさつをする。	・いつも通りの流れで授業をスタートすることで、リラックスした雰囲気での授業を始められるようにする。	・あいさつをする。
	2 Small Talk テーマ「好きなテレビ番組」	・よいやり取りをしているペアを見つけ、紹介する。	・Small Talkの様子を見守り、困っている児童へ支援する。
7	3 本時のめあてを理解する。 ・前時で紹介した T 1 の発表内容を確認する。 ・前時で考えた発表内容をミニポスターを見せながら隣の児童とペアになって伝える。 ・T 1 の新たな発表内容を聞く。(デモンストレーション①) ・前時との発表内容の違いを考える。 ・T 1 と T 2 のデモンストレーション②を聞いて、T 2 の質問事項を理解する。 ・本時のめあてを確認する。 友だちとのやり取りを通して、自分の住んでいる町のことを詳しく伝え合おう。	・前時に考えた発表内容は、4 文程度のほぼ内容が定まったものとしておく。 ・本時のめあて及びゴール (ALT に自分の町を詳しく紹介しよう)を確認することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・「詳しく」とは「質問→答える」のやり取りを通して、発表内容を膨らませることであることを、図に示しながら説明する。 ・「Do you like(have,want)～？」を使うと質問しやすいことを伝え、できるだけこの表現を使って質問するように促す。	・T 1 とデモンストレーションをする。
【デモンストレーション①】 T1: This is my town, Hikawa. Hikawa is nice. We have Hikawa kouen. We can ride a long slider. <u>We don't have a pool. I want a big pool.</u> (追加) 【デモンストレーション②】 T2: <u>Do you like a long slider?</u> T1: Yes, I do. I like a long slider. T2: <u>Do you have a pool?</u> T1: No, we don't. We don't have a pool. T2: <u>Do you want a pool?</u> T1: Yes, I do. I want a big pool.			
6	4 やり取り① (言語活動) ・近くの児童とペアになって伝え合う。(複数)	・Do you like(have,want)～？の質問やそれ以外の発展的な質問 (What ○○ do you like? や Can you ～？など)をして いる児童を確認する。	・質問できずに困っている児童について教えたり、発音練習をしたりする。

5	5 中間評価①（指導） ・ Do you like(have,want)～？の表現を用いて質問できたかふり返る。 ・ それ以外の質問について考える。（発展的な質問）	・ よい児童の例を紹介し、何がよかったか考えさせる。 ・ 発展的な質問をしていた児童がいない場合は、具体的な場面を想定し、どんな質問をしたよいか児童に考えさせる。	・ 押さえない質問表現の発音補助をする。
6	6 やり取り②（言語活動） ・ 中間評価①でふり返ったことを生かし、再度違うペアとやり取りをする。	・ やり取りを通して、内容が膨らみそうな児童を確認しておく。 ☆自分の住んでいる町のよさなどについて詳しく伝えようとしている。（観察・ふり返りカード）	・ 困っている児童に寄り添い、支援する。
5	7 中間評価②（指導） ・ ボランティアの児童の発表を聞いて、内容が膨らんだところを確認する。	・ 内容が膨らみそうな児童に発表させる。 ・ やり取りを通して、発表内容が膨らんでいるか確認する。	・ ボランティアの児童の発表補助をする。
6	8 発表（言語活動） ・ 「前時の発表＋追加した内容」について一人で練習する。 ・ 「やり取り①」のペアと発表し合う。 ・ 参観者の先生方に伝える。	・ 一番最初にやり取りしたペアと発表し合うことで、内容が膨らんでいることを互いに意識させる。 ・ 本番のALTを想定して、参観者に発表することを伝える。 ☆自分の住んでいる町のよさなどについて詳しく伝えようとしている。（観察・ふり返りカード）	・ 自信をもって発表できるよう声がけをする。
2	9 ふり返る 10 あいさつをする。	・ めあてに沿ってふり返りカードに書くように伝える。 ・ あいさつをする。	・ あいさつをする。

（３）本時の評価と支援

十分満足できる児童の姿	概ね満足できる児童の姿	支援を必要とする児童への手立て
・ 友だちの発表内容を聞いて、Do you like(have,want)～？以外の質問もしながらやり取りをしようとしている。 ・ 友だちの質問を受けて、発表内容を複数膨らませて伝えようとしている。	・ 友だちの発表内容を聞いて、Do you like(have,want)～？を用いてやり取りをしようとしている。 ・ 友だちの質問を受けて、発表内容を１つでも膨らませて伝えようとしている。	・ 児童にとってなじみやすい Do you like～？で質問できる場所がないか一緒に考える。 ・ 内容を膨らませることに困っている児童には、英語表現を導く。

（４）授業の視点

「言語活動」⇒「中間評価（指導）」を繰り返す授業展開は、相手意識をもって、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育むうえで有効であったか。